

文田哲雄先生のご退職に寄せて

新緑の季節になりましたが、春寒のみぎり文田先生の退官記念講演にて拝見させていただきました。すばらしい絵画の数々は強い印象となって脳裏に焼き付いています。文田先生は平成11年3月末日をもって本学を定年退職されましたが、未だに退職されたという実感がなく、学内でいつでもお会いできるような錯覚に陥ります。このたび論集「人文」の第23号を文田先生の退官記念号として発刊することになり、今までの文田先生のご功績に対してささやかながら敬意を示す機会が得られましたことをうれしく思います。

文田先生は、甲南高校から多摩美術大学に進まれ、卒業後は県立薩南工業高校の美術教師として勤められた後、昭和43年に本学の家政学科被服専攻に赴任されました。以来31年間、本学での教育・研究・管理運営ならびに地域の学術文化の向上にご活躍なさいました。先生は、フランス政府の給付留学生としての経験をお持ちで、ヨーロッパ絵画・デザインにおける世紀末の美の表現について造詣が深く、本学での生活デザイン学、生活デザイン実習、色彩学、生活造形史、卒業研究それに教養科目の芸術論などの授業にそれらの研究成果を還元してこられました。いずれの科目も先生の温厚でナイーブな感性と相まって学生に人気がありました。また、先生は地域の服飾デザイン等にも関心を持たれ、先生がデザインの部門を執筆された「大島紬の研究」はMBC賞を受けるなど高い評価を受けています。更に先生は、学内の専攻主任や地域研究所長を歴任されました。特に平成7年度は家政科から生活科学科になる時期に学科長を勤められ、新たな枠組みづくりに尽力されました。

そして先生の存在は、高校の頃より才能を発揮されていた絵画への情熱により一層輝きを増していたと思います。1961年から現在まで二科展並びに南日本美術展に出品された多くの作品のほとんどは「少女」をテーマとしているもので、心惹かれるものを描くことに執念を燃やされた先生の真摯な姿勢が伝わってくるようです。また、多忙な中、平成4年から、二科展審査員と南日本美術展審査員の両方を歴任され、学術文化の向上に貢献されました。このように幅広く活躍される先生が生活科学専攻にいらっしゃるということは我々の誇りでもありました。

本学では、平成11年6月に、このような先生の永年にわたるご功績を讃え、本学名誉教授の称号を授与することになりました。今までの先生のご指導に感謝するとともに、今後の先生のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げたいと思います。

平成11年 6 月

鹿児島県立短期大学生活科学科生活科学専攻世話人

廣 瀬 春 次